



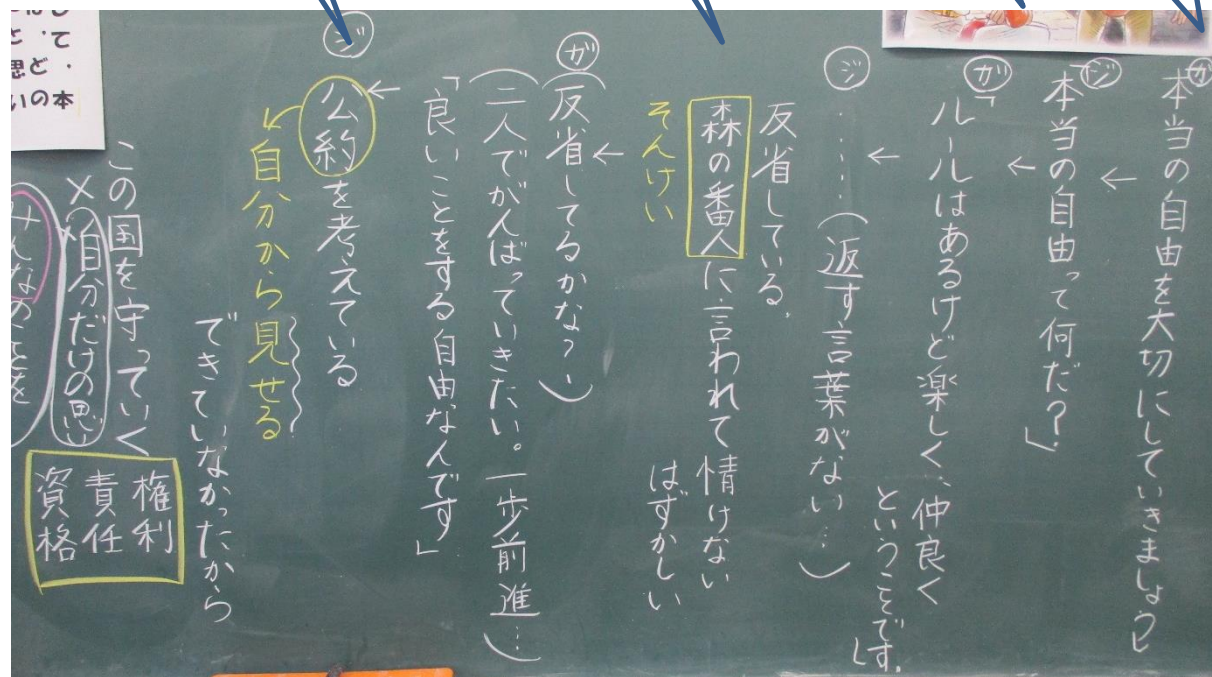
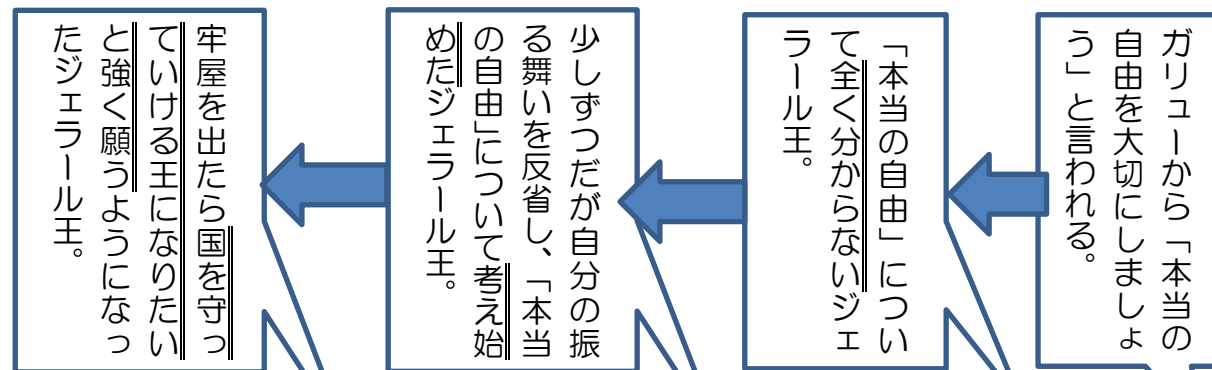
油木小学校 5年学級通信
—38号—
令和3年2月5日(金)
5年担任 荻原 汐里

6年生まであと少し...

最近、子ども達とよく話題になるのが「あと何日で6年生になるのか」ということです。残り2か月と気付いて、「よっしゃー。」という声の一方、「え!?もう2か月で6年生になるん・・・」という声も。期待もあり不安もあるのだろうと思います。もうすぐ新児童会役員選挙が行われます。選挙管理委員会にIさん、Kさんが立候補してくれました。Kさんは経験者ということもあり、中学年の選挙管理委員を支援してくれています。Iさんは、委員長に立候補し、選挙全体を進めてくれています。また、児童会長、副会長、議長、書記に立候補することを決めた人たちは、どんな油木小学校にしていきたいかをすでに考えているようです。推薦者として立候補者を支援してくれる人、後期の選挙に立候補したいと思っている人も、油木小学校のことを考えて動いてくれているなど、とても嬉しく思います。毎日の授業にも全力で取り組む姿を見て、5年生としての成長をすごく感じます。6年生まではあっという間です。悔いのないように生活していきましょう!

本当の自由って...?

道徳科で「本当の自由」について考える学習をしました。初めは自由とは「好き勝手にできる」「何もしなくても許される」「楽しいことだけできる」などの意見が出ていました。その後、『うばわれた自由』(わがままなジェラルール王は、狩りを禁止されている森で狩りをしていた。森の番人ガリューが注意すると、ガリューは牢屋送りにされてしまう。その後ジェラルール王は、わがままが過ぎて裏切りにあい、牢屋に入れられてしまう。そこでガリューとジェラルール王は再会し...)という教材を読み、二人の牢屋でのやり取りを対話形式で考えていきました。



ガリューは一貫して本当の自由について、ジェラルール王に説いています。その言葉に、だんだんとジェラルール王は考えが変わっていくと子ども達は考えていきました。すごいと思ったのは、ジェラルール王がすぐに反省したり、考えを改めたりしたのではなく、ガリューに返す言葉がなく黙ってしまったという考えが多く出たことでした。これは、子ども達がジェラルール王の立場に立って、気持ちを考えていることを表していると思います。中には、ジェラルール王は結局最後まで、ガリューの言った「本当の自由」にはたどり着けなかったと考える子もいました。ハッピーエンドをついつい考えがちですが、子ども達の世界は意外とシビアだな～と感じました。それだけ深く教材と向き合っているのだと思います。最後に「どうしてジェラルール王は、国を守つていこうと思ったのか」と問うと、それぞれ「権利」「責任」「資格」などがあるからだと答えていました。そして、みんなが考える「本当の自由」とは?の問いには、やることをきちんとやってこそ自由な時間が得られると話していました。日常に生きてくる学習になったと思います。